ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

アテネオリンピック予選を終えて、そして次へ繋げていくために

(財)日本ハンドボール協会専務理事　大西武三

長い間準備してきたアテネオリンピック予選が終わった。男子韓国戦、残り3秒のフリースローで1点入れていれば悲願のオリンピック出場が果たせた。残り7秒、2人退場で6対4、パワープレイで同点にしておけば後の展開は違っていたものになっていた女子。熱烈なる応援のなかであと一歩のところでオリンピック行きの切符を逃してしまった。

全日本男女チームは期待を一身に背負って奮闘してくれました。久しぶりに見る選手、関係者、ファンの一体感であった。ここに至るまで多くの皆様方、団体に大変なご支援・ご協力いただきましたことに心よりお礼申し上げます。

アテネ特別委員会が3年前に発足し、留学制度や国内ナショナルサーキット、海外遠征による強化など従来にない強化を男子チームには行ってきた。女子も海外遠征や4月からの100日強化合宿など厳しいトレーニングを行い大会に備えた。精一杯やったといえども、オリンピック出場を逃したことは、日本協会として多くの皆様の期待に添えなかったものであり申し訳なく責任を感じております。

今回の結果を土台として、いかに今後に繋げていくかが、日本協会の課題であります。課題達成のためには、今後とも構造改革、プロジェクト21を強力に進め、以下の3つの目標を挙げたいと思います。

①2010年にハンドボール人口を日本で野球・サッカーに次ぐ3位にする（小学生を中心とした地域ハンドボールチームの育成)。

②オリンピックに常時出場し、メダルを獲得できる実力をつける。

③（財）日本ハンドボール協会が人、物、金で自立化する。

これらを2005年に完成していくことを目標に協会活動を進めていきます。普及と強化を達成するための施策を統合して進めていくのがこのプロジェクトでありますが、その象徴は強いナショナルチームと世界に通用するプレイヤーの出現です。

1997年熊本での世界選手権のおり、World Handball Player of the Yearとしてドイシバエフ（男子)、イム・オキョン（現在メイプルレッズの監督兼選手）両選手表彰されたことはご存知のことと思います。この賞は世界のハンドボール関係者、ファンから世界最高のプレイヤーのお墨付きをもらうものです。今大会ではこの賞をもらった選手では日本戦で11得点したユン・キョンシン選手（韓国、203cm、サウスポー)、中国女子のザイ・チャオ（32歳、178cm）が出場しています（韓国男子ペク・ウォンチュル選手は今年度4位の得票を得ている)。結果的には世界NO.1の選手を擁した韓国男子と中国女子がオリンピック代表権を得たことになります。

今後、日本としては世界のエースとなるプレイヤーを是非とも育成しなければなりません。このためにはナショナルチーム強化策をさらに充実したものとしていくとともに、Pro.21の具体的施策の一つである小学生3000チームの育成、それと平行してNTS、指導者育成等諸施策を都道府県協会・連盟と中央協会とが一体となって取り組んでいく必要があります。

日本協会はハンドボール関係者の皆さんとともに頑張っていきたく思っています。

アテネオリンピックアジア予選神戸大会

アテネオリンピックアジア予選報告

（財）日本ハンドボール協会常務理事　**緒方嗣雄**（強化委員長）

大会まで

2000年シドニーオリンピックアジア予選に敗れ、日本協会は、オリンピック出場を目標に、アテネオリンピック強化プロジェクトを立ち上げた。

2001年に入り具体的な強化プランのもと、海外拠点の設置（バルセロナ）・留学生の派遣（当初6名）・国際試合増加等の強化策を実行する。オリンピックアジア予選を日本で開催することは、このプランの最終目標でもある。

2001、2002年と代表チームの強化プランを第一と考え国内計画を大幅に変更しスタートした。年間30～40試合の国際試合を経験することにより個人モチベーションの向上が見られ、戦うチームへと変貌した。

2003年留学の終わったメンバーも加わり、7月には前哨戦強豪エジプト代表チームを招待したジャパンカップでは2勝1敗と幸先の良いスタートを切る事ができた。8月に入り、16名のメンバーに絞りこみチェニジア・エジプト遠征を行った。予選に備えた万全のチームとなった。

一方、女子代表は、現有勢力に学生選手をピックアップし70日間の長期合宿を実行した。フィジカル面の向上と戦術的習熟度のアップ、メンタリティーのレベルアップを図りながらチームワークを強化した。また各地で男子高校生、大学生、実業団チームと練習試合を重ねチーム力をつけた。8月末より大会前までのノルウェー・デンマーク遠征では大型の選手対策を考えながらの練習試合。数多くの練習試合をしてチームワーク・チーム戦術の強化を図った大きな成果は、選手全員に自信が出て来た事である。

9月に入り男子代表チームは鈴鹿にて最終調整、女子代表は帰国即大阪、西宮での最終調整を行い神戸予選に臨んだ。

大会について

①男子対戦について

初日のタイペイ戦は、順調に戦い、勝利する。第2戦目、宿敵韓国一点に絞りトレーニングを重ね、最高のモチベーションで試合に臨む事ができた。スピーディな展開から前半は3点リード、後半に入りすぐ同点とされるがその後一進一退の攻防を繰り広げ1点を競う白熱した試合展開となり、残り3秒日本のフリースローとるが、シュート狙うも同点で終了。第3戦中国。得点差を考え大量点差で勝ちたい日本チームであったが思うように点差が開かず終了。

②大会対策

オリンピック出場は、中近東対策と宿敵韓国を破ることである。予選日程が確定してから、IHF臨時総会の開催、SARS問題等により、中近東の不参加が確定し男子については的を韓国一本に絞ることができた。宿敵韓国に、小細工も考えず真正面から勝負に挑み勝利目前での引き分け。勝つ事が出来なかったが大奮闘を見せた選手を讃えたい。アテネ強化プランの成果は得た、韓国に負けなかった事、苦しめた事等であるがオリンピック出場の結果が出せなかった事に責任を感じている。

③女子対戦について

前年のアジア選手権で4位の日本代表チームであり、それぞれタイプの違ったチームとの対戦となる。なんとか混戦に持ち込みその中で頭一つ抜き出る作戦で、一番戦いやすい中国を緒戦の相手に選んだ。（編集部注：開催国はオープニングゲームの対戦を選べる。）前半14対7のダブル・スコアを良く追い上げ、1点差の敗戦。

2戦目の韓国戦は前半リズムを掴んだ日本が2点リード、後半立ち上がり連取で逆転されるも良く粘り、追いつき同点にて終了。23年振りの勝利を逃す。

3戦目のカザフスタンでは、予想通り高さに苦しみながらも良く健闘したが勝利には至らなかった。

予想通り混戦に持ち込んだものの結局は4位となった。同点、1点、2点と僅差の試合となり1点の重みに苦しんだ大会となった。

総括

①男女共に1点の重み：悔やまれる1点が多く、1点の重要さを感じさせられた。

②日本のホームで戦えた事の真の戦力の把握：神戸の地の利を生かし切れなかった（特に前半）。

③中近東のチームの不参加：大会の正常化が必要。

④情報分析活動：ゲーム分析を瞬時に、的確な情報。勝利

には情報戦略が不可欠。

⑤大きな力となったサポーターの大声援：マスコミ報道の力、学生応援団の熱い心、日本チームの頑張り。

日本代表チームの勝利の為に、ありとあらゆる対策を実行して頂き、日本チームのオリンピック出場を念願し、ご協力頂きました全てのハンドボールマンにお詫びとお礼を申し上げます。

再挑戦

今回の敗戦の悔しさを忘れずに、2008年北京オリンピックを目指した強化プランの構築と実行を第一と考え、進んで行く必要があります。この大会で活躍した情報分析班の対戦・戦績評価をも十分に検討した強化方針の検討も重要である。

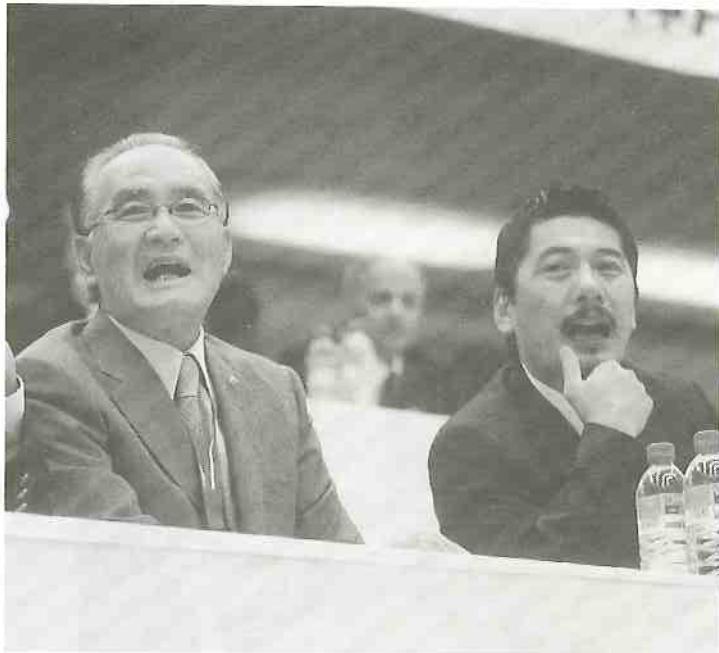
アジアの各国の方向は大型化に進んでいる。同じ方針で進んでも日本人の体格では多くは望めない。大型化も視野に入れながら日本独自の戦術開発が必要と考える。その中で特にスピードとフェイント力の強化である。スポーツの原点である１対１で勝負できる選手と、速攻でのスピードアップする事が重要である。これらを備えるには何と言っても体力強化が最重点課題である。

終わりに

最後になりましたが、この大会に多大なる支援をして頂いたスポンサー企業、毎日試合会場に足を運んで大声援をして頂いたサポーターの方々、大会にご協力頂いたボランティアの皆様、ハンドボールの報道に努力頂きましたマスコミ関係者、連日会場で激励いただきました協会役員の皆様に厚くお礼申し上げます。

フォトレポート：大会舞台裏から

コート内での熱戦の陰には、多くのドラマと多くの裏方の努力が見られました。そこに集う人々の想いはスポーツを愛する心と、代表チームのオリンピック出場への願い。残念ながらオリンピック出場は逃したものの、会場を取りまく多くの人々は生き生きと輝いていた。

会場を訪れた来賓の方々

ＪＯＣエグゼクティブアドバイザー・全日本野球チーム監督長嶋茂雄氏（左）と神戸製鋼ラグビー部ＧＭ平尾誠二氏（右）

ミスター・タイガース
掛布雅之氏

福田富昭ＪＯＣ強化本部長

松永怜一ＪＯＣ名誉会員

会場を盛り上げ、大会を支えた人々

会場にはウェーブが。次へのステップを生み出す本当の力はこのウェーブの中にあるのかも知れない。

ムササビクロスカップと応援をまとめた実業団連盟事務局大畑孝広氏

ムササビグッズ販売所

スポーツボランティアの皆さんも活躍！

ＴＶＫテレビ放送。アナウンサーの久保弘毅氏と解説の蒲生晴明氏

情報分析スタッフは真剣にゲームを見入る

少年少女の憧れはやっぱり選手。ファンのサインに応じる中川キャプテン

ドーピング検査に携わるメンバー。左端は西山氏

高校生スタッフは最後まで頑張った

アテネ事務局。後中央は丸茂さん、後右は高祖さん

オフィシャル席は正確さが命

戦い済んで：さよならパーティーでの笑顔

大会を成功させた大原兵庫県協会理事長（右）と渡辺会長（左）

岡田兵庫県協会会長（右）と大西専務理事（左）

市原副会長と坂元（左）、藤浦（右）選手

日本協会の役員

次こそ「頭」を取るぞ！
男子エース宮崎選手

男子代表チーム

2002世界女子No.1ザイ・チャオと女子メンバー

女子代表チーム

チームマネジメント・シンポジウム

スポーツマネジメントを考える

平成15年9月7日（日）、渋谷東武ホテルにおいて、日本ハンドボール機構主催によるシンポジウムが開催された。このシンポジウムは、トップリーグ所属各チーム並びにリーグ機構活性化のために開催されました。日本リーグ所属18チームの部員・監督等の関係者（62名）参加のもと、日本ハンドボールリーグ機構川上委員長の開会の辞、市原会長の挨拶をもって会は幕を開けた。

基調講演　スポーツマネジメントを考える

（独）経済産業研究所 上席研究員　広瀬　一郎

プロフィール

1955　静岡県三島市生まれ
1974　静岡県立藤枝東高等学校卒業
1980　東京大学法学部卒業
同年　株式会社電通入社
1994　2002年ワールドカップ招致委員会事務局出向（企画副部長）
1999　Ｊリーグ経営諮問委員会委員就任
2000　㈱スポーツ・ナビゲーション設立、代表取締役就任
2002　（独）経済産業研究所　上席研究員就任

●はじめに

周知のように日本の企業所属スポーツチームが、近年相次いで廃部を強いられている。「企業に支えられたスポーツ」という従来の形態は、大きな変革の岐路にさしかかっており、その一方で、多くのスポーツ種目が独立採算への道を模索し始めている。今年サントリーが設立したスポーツフェローシップ部は、主な事業をこれまでの親会社の社会貢献事業としてのスポーツへの取り組みから、チーム運営、スポーツイベント企画運営までを含めてその業務範囲としている。企業所属チームとして社会貢献する形態から、そのチーム、ひいてはスポーツ自体の価値を活かして運営する形態へ移行する動きであるが、この変化に一つの方向性を見出すことができる。スポーツの産業化は日本でも確実に迫ってきており、スポーツ界におけるマネジメントの在り方について考える必要があるだろう。

●問題認識

企業スポーツの衰退という昨今の現象は、その原因が、「日本経済の停滞」に寄せられている。ハンドボール界においても、先程、市原日本ハンドボールリーグ機構会長の開会の挨拶にもあったように、「30あったトップチームが今は18にまで減少している」という。それでは経済が回復すれば、企業スポーツは再生するかというと、残念ながらその過半数が「景気が回復しても、チームの再開は考えていない」というデータが出ている。このことは、親会社の経済的事情は単なるきっかけに過ぎず、本質的な問題は別にあることを示唆している。本来であれば、「なぜ再開を考えないのか」と理由を問うべきであろう。

今や日本のすべての企業にコーポレート・ガバナンスが求められる時代である。したがって、「成果」が最も重要視される。「成果」を求められるあらゆる組織に「マネジメント」は不可欠である。ところが、日本の場合、歴史的な背景からみると「学校体育」の弊害により、「スポーツ独自のマネジメント」が欠如しているというのが現状である。学校体育という制度の中では、スポーツに必要なマネジメントは学校に依拠してきている。それが一般社会に出たときに、単に企業に代替されたに過ぎない。よってスポーツの内部において独自のマネジメントを行う必要性は、これまでなかったと言えるだろう。その中でも特に、最も伸長する可能性の高い第三次産業のサービス分野としてのスポーツが、未開拓のままである。

現在のスポーツ産業においては、資本・制度・ナレッジ（人材）の三つが必要不可欠とされている。しかし、今のスポーツ界には「マネジメント・ナレッジ（一般的ビジネス・ナレッジ）」が欠落しているため、企業が求める「成果」は望めない。この問題点を解決するためには、早急にスポーツ産業としてのビジネス・ナレッジを形成し、人材を育成することが求められる。

●調査

トップ・スポーツの運営に関わるビジネス・ナレッジの

現状と問題点の所在、対処形態を明らかにするために、調査を行った。多くのビジネス・ナレッジからトップ・スポーツ運営に必要とされるナレッジを分けると以下の６つの分野になった。(調査の過程で6分野以外の言及はなかった。)

①組織論　②経理・会計・財務・税務

③法務　④マーケティング

⑤広報・PR・危機管理　⑥地方自治体・公共事業体・NPO

●結果

・チームを運営するスタッフのほとんどは親会社からの出向等で構成されている。

・リーグ運営の経理は、その専門スタッフに委託している。

人材のリクルート方法や業務の分担は、プロ化志向・独立採算志向が低いほど曖昧さが見られ、安定しない印象があり、提示した６つのマネジメント・ナレッジについても、個々の回答としてはそれぞれの必要度を認めるものの、リーグ・チーム運営としてそれが必要であるとする共通した理由は見られなかった。

●考察

競技運営のマネジメントにはプロフェッショナリズムを必要とする。競技がアマチュアだから、チームやリーグ運営もアマチュアでいいということにはならない。また、日本のスポーツ界ではボランティアの存在が圧倒的な位置を占めているのも現状である。

トップ・スポーツから下部組織・地域組織へとナレッジを浸透していくためには、「プロフェッショナリズムを求められる運営」と「ボランティアスタッフの登用」の調和を考えていくことが大切である。

●展開・展望

スポーツ発展のためには、マネジメントの開発とスタッフ育成が重要であることが、スポーツ界の共通認識になりつつあるが、そのチーム・リーグが維持、発展を模索する上で本当に自立を志向するのか、あるいは企業スポーツの形態を維持しようとするのかということが新たな問題となるだろう。それによっては必要なマネジメントも異なってくるはずである。

ビジネス・ナレッジやスポーツ独自のビジネス・ナレッジが欠如している事実に、その必要性と現在の危機的状況が直結して認識されていないのではないだろうか。また、規模の縮小や廃止に追い込まれている現状の裏にどのような原因があり、打開策は何であるかを認識しているか、スポーツが産業化する意味やその有効性がコンセンサスを得ているか等は未だ疑わしい。原因はこれまでの「親会社」に頼りきった体制や、与えられた範囲での人材、ナレッジで対応してきたスポーツ界全体の姿勢にあるのではないだろうか。

●課題と展望

現状が危機的であるという認識の共有化がなされると、マネジメント開発とスタッフ育成について、具体的な対応が中心的課題となるはず。スポーツ界は需要に応えられるナレッジの整理をし、マネジメントを任される人材に門戸を開くことで、産業としてのスポーツが確立される可能性は、更に大きいものになるだろう。

パネルディスカッション

日本のスポーツマネジメントの方向性を探る

●コーディネーター

スポーツプロデューサー　杉山　茂

●パネリスト

（独）経済産業研究所上席研究員　広瀬　一郎

東京新聞運動部長　財徳　健治

前 JOC 在外研修員　田中　茂

杉山　先ほどの広瀬さんの『スポーツマネジメントを考える』の講演を踏まえて、今日は他のパネラーの皆さんとともに『スポーツマネジメント』について考えていきたいと思います。それではまずはじめに、海外のチームでコーチをされていた田中さんから、口火を切っていただきましょう。田中さんの紹介をかねて、ＦＣバルセロナのチームマネジメントについてお話ください。

田中　平成13年８月から先月までスペインに JOC 在外研修員として派遣され、競技技術、戦術、運営などを勉強してきました。私がコーチをしたＦＣバルセロナは、サッカーが有名ですが、その他にも10競技をもったクラブです。サッカー、バスケットボール、ハンドボール、ローラーホッケーなどの選手のほとんどが、プロとして活躍しています。この中でのマネジメントとして、例えばチームの『収入源』で考えてみますと、その約70％がテレビ放映権、スポンサーからのものですが、それ以外のものからの収入が大切だと彼らは考えています。というのも、それ以外はソシオといわれるＦＣバルセロナの会員から集めた会費のことなのです。ＦＣバルセロナにはユニフォームにスポンサー名が入っていませんが、おそらくクラブチームの中で

広瀬一郎氏

そういったチームは無いのだと思われます。というのも、お金はスポンサーではなく、ソシオがもっと払うから、ＦＣバルセロナは市民のものであるという意識が強いため、私物化しないで欲しいとの願いがあるのです。また、ソシオはバルサ（ソシオ組織）の目標でもあります。どういうことかというと、人が集まれば、当然スポンサーも増えるし、TV放映権料も増える。つまり、チームを強くし、世界的に有名な選手を集まれば、さらに人気が高まり、ソシオも増えるというわけです。故に『人』が大事と彼らは考えているのですね。バルサの目標としては2003年までに、100万人のソシオが生まれると予想しています。これだけのバルサになれば、選手だけが『プロ』ではＦＣバルセロナは成り立たない。当然のことながら、運営側も『プロ』でなければ駄目だということになります。私は日本人留学生として、日本のチームはどうすればＦＣバルセロナのようになれるかを聞いてみましたが、逆に日本人は頭がいいのだから、日本的なやり方を考えていけばいいんじゃないの？と言われ（からかわれ）ました。

杉山　ソシオの中で、ハンドボール会員の割合はどれくらいなのですか？

田中　ソシオは11万人おりますが、その中でハンドボールの会員、サッカーの会員と分かれているわけではありません。もちろんサッカーの人気が高いのですが、バスケットボール、その次にハンドボール、テニスなども人気があります。でも彼らはカタルーニヤ地方の人として、ＦＣバルセロナが好きなのです。だから、どんなスポーツでもＦＣバルセロナの試合には応援に行きます。

杉山　ヨーロッパのクラブと比べて、日本のハンドボールクラブは、どういうものであるべきだと思いますか。

財徳　話はハンドボールのことではなく、サッカーのことになってしまうのですが、日本にプロが誕生したのが、Ｊリーグが生まれるちょっと前。ドイツのブンデスリーグに８年間所属した奥寺選手、それに次いで木村和司。彼らは、組織が『アマ』であった時代、日本プロスポーツ選手の草分け的存在となったわけです。そしてＪリーグ発足時、日本のチームを強くしていくためには、日本の選手の中にも、プロであるという意識が必要であると盛んに言われていたのです。プロ意識を向上させるために、他国から外国人監督、コーチを招き入れて、競技力の向上を図ろうとしたが、選手の意識は低い、日常生活はメチャメチャ、なかなか成果は上がらなかったといいます。それがこの間、サッカーの成長は目覚ましいものがある。様々な努力の賜だと思うが、プロがプレーして、運営がアマチュアという体制は以前とあまり変わっていない。それがＪリーグ川淵チェアマンによって、『三位一体（自治体・チーム・サポーター）』という言葉がよく聞かれるようになり、地域に根ざしたチーム作りが始動していった。当時、様々なことを駆使し、熱心であったのが浦和レッズ。レッズは３人がセットになって応援しようということをサポーターに呼びかけました。そうすればサポーターは応援の旗をもらえるという特典が付いてくるのだが、チームが狙ったのは実際に会場に足を運び、応援することによって、『このチームは自分たちのものという意識』つまり連帯感が生まれるということ。だからどんなにチームが弱くても、負けても、会場は地元サポーターでいつもいっぱいになる。

杉山　いささかサッカーの中心の話になったが、ここでヨ

ーロッパのハンドボールというものを世の中に押し出すとする、あるいはスポーツが現代風に活気ある道を辿るとすると、何が必要になってくると思いますか。

広瀬　一言でお答えすると、万能薬はないということですね。先ほども講演で触れましたが、スポーツって定義がないと思うんです。でも、これがないと社会と共同体は離れていってしまう。社会っていう概念がない限り、公共性は生まれてこない。今来ている人（顧客）の満足度を見ずに、なぜ来ないのかというのはナンセンスでしょう？　要は、どうやってマーケティングに結びつけるかです。

杉山　ではスポーツを商品と考えると、一番の売りはやはり『競技力』だと思いますか。

広瀬　情報の力を過信してはダメだが、オリンピックで金メダルを取るというのは情報の力。スポーツとはそのもののこと。情報はむしろその対局にあるものです。

杉山　今のメディアのことについて言うと、メディアの中にハンドボールを進出させるには何が必要となってきますか。

財徳　『すげぇなあ』という内容があれば、新聞の一面には載る。強くなければ

財徳健治氏

田中　茂氏

扱わないというのが新聞。もう一つは、チームの団体だけの問題ではないが、競技をやっている人が多くないとダメ。その競技に関心を持っている人が多ければプレッシャーになるし、少なければ、そんなに記事のスペースにもさけないというのが新聞。

杉山　単に勝っただけでなく、負けたこと、そんな試合があったかということを伝えるのも、大切だと思うのですが、ＦＣバルセロナではどうですか。

田中　あちらでは、30面位新聞のページがあって、半分程度はスポーツの内容です。地元チーム（ＦＣバルセロナ）と他チームとの比較を常に分析し、記載しています。

杉山　人々のハートをつかむためには、『すげぇなあ』という何が必要だと思いますか。

財徳　世界に進出すること、勝つことでしょうね。

杉山　それでは、メディアに対するマネジメント、スポンサーに対するマネジメントはどういうものがありますか？広瀬さんの先ほどの講演にもありましたが、スポーツのファンを生むためには、学校依存から地域依存にするための処方箋はありますか？

広瀬　まず、お勧めしないことからお伝えすると、『広告』です。例えば、試合を観に300人が会場来たとしたら、その人たちを使うこと。結局の所は、『ロコミ』が大事だということです。また来ようよ、来たいと思わせることですね。

杉山　バルセロナのソシオは11万人なのですが、会員のすべてがボールを蹴ったことのある人ではないでしょう？

田中　もちろんそうです。例えばこんな話があります。ソシオの中から子どもが生まれたとき、早く名前を付けないといけないという。なぜかというと、ソシオになるから、カタルーニヤ地方の人として、バルサの会員にならないといけないからなんです。

杉山　日本ハンドボールリーグの企業が地域と一体化するには、どういう方法が一番いい方法だと思いますか。

広瀬　子どもは宝です。地域の子どもを企業は試合や練習に招待したりするとよいでしょう。スポーツを通じて、ハンドボールをやって自分の人生や将来が変わったという子どもを育てたいですね。

杉山　取材をしてスポーツ・マネジメントはどうあるべきだと思いますか。

財徳　みんな今より、スポーツが盛んになって欲しいなあと思いながら、やっているのではないでしょうか。ということは、逆に、やっていない良いものを探すことが大事なのでは？例えば、全国区を目指してやっているクラブが、地域に根ざして一体化すること。選手は社会的に注目されているだけ、貢献をすることなどがそうでしょう。

杉山　茂氏

杉山　僕はハンドボールの価値を高めることだと思う。ＦＣバルセロナも誇りを持っているようにね。

田中　その通りですよね。

杉山　クラブのマネジメントに求められているのは、スポーツ、ハンドボールそのものをどう考えていくかということ。その論理付け、例えば企業がなぜ『ハンドボールをやっているのか』ということを考える意識が、今まで欠けていたとは言わないが、乏しかったと思う。

広瀬　チームのビジョンと現在の監督の考え、チームの戦術、選手のリクルーティングが結びついていなければ意味がないと思う。しかし、ほとんどのチームがそれがない。ここが日本のチームの甘さだと思う。

杉山　バルセロナ・リポートで何か不足な点があれば、お願いします。

田中　ＦＣバルセロナのマネジメントは人（ソシオ）。年間で約250億（円）弱のお金を集めることができます。これだけのお金が集めているので、選手に夢を与えるため、プロ化しています。日本もやはりそうすべきでしょう。好きなスポーツをやりながら、お金が稼げるという体制を作っていかなくては、いつまでもアマチュアで、情熱を持ち続けていくというのは、難しいでしょう。ましてや日本のハンドボール人口も減っていることですしね。

シンポジウムの終わりにあたって日本ハンドボール機構副山下副会長より、謝辞が述べられ閉会した。

指導委員会報告　コーチ講習会（神戸）開催される

アテネオリンピック予選（神戸）開催の関連事業として、（財）日本ハンドボール協会指導委員会は９月23日（火）委員会を、24日（水）第１回コーチ講習会、28日第２回コーチ講習会（審判委員会と併催）を開催した。今号では24日（9:00 ～ 13:00）、西神オリエンタルホテル大会議室に於いて行われたコーチ講習会（司会進行：土井秀和近畿ブロック指導委員長、通訳：西田宏氏）から、３人の方々の講演要旨を掲載致します。

講習１：エジプトの一貫指導

IHF会長　Dr.ハッサン・ムスタファ

ナショナルチームの強化のため、国内すべてのチームの調和融合をはかり、1984年から以下のことを実行してきた。エジプトの180チームあるクラブチームの役員・コーチに対して、国内リーグ開始前にナショナルチームの強化方針を伝え、ステップなどの技術や戦術をすべてのチームに対して指導してもらうほか、ナショナル用の特別ルールで試合してもらった。例えば、ＧＫの能力を上げるためにハーフタイム後７ｍスローを行うこと、９ｍ以上からのシュート能力を上げるためにその得点を２点にすること、スローオフを笛の合図無しで行うことなど。３ヶ月ごとに各リーグとナショナルスタッフが講習会を行い、ナショナルと指導者・レフェリーの考えを統一した。レフェリーと指導者の数を増やすために28歳以上のプレーヤーには選手をやめてもらって指導者・レフェリー・役員になってもらった。

ハンドボールの人気を高めるために、小学校５・６年から体育授業に組み込んでもらい、才能ある長身選手を早期に発掘してきた（大きい選手や能力の高い選手には会長自らチップをあげた！）。行事の数を多くし、メディアの有効利用を図った。

講習２：世界のハンドボールの傾向

IHF競技委員長　ペーター・ミューレマター

１.試合について

新しい規則は素晴らしい結果をもたらしている。ユニホームは暗い色と明るい色を使い分けていて観客・選手・レフェリーにとって見やすくなった。ＴＶカメラ・照明を増やし、プロの司会進行・解説者をおき、居心地がよくて、見やすく、素晴らしい会場（スコアボードの改良も検討中）をつくり、観客に対してもっと魅力的なハンドボールとよりよいサービスを提供すべきである。

２.チームとプレーヤーについて

①女子～技術的に優れたプレーヤーが出ている。個人の能力は上がっているが組織的な面はそうでもない。スピードが上がったことと積極的なＤＦにより、ミスが増えてきた。より攻撃的なＤＦが多い。大きな大会に出る選手は、平均62試合／年を経験し、平均年齢25.7歳。平均年齢が上がったことはいいことである。ナショナルチームは、130時間のトレーニングが必要である。

②男子～平均試合経験数は85試合／年。平均年齢28歳。平均年齢は上がっている。スウェーデンは高すぎる。数年前の入れ替えに失敗した。

3.サイドプレーヤーによる攻撃とシュート

コートのセンターに向かって走り込む攻撃が有効。もっとサイドプレーヤー得点が可能である。数年前に比べて格段に能力が上がっている。60％の成功率が望ましいシュート成功率である。

4.ディフェンス

3－2－1DFを効果的に使っている。6－0ラインDFがはるかに発展進歩した。5－1DF、4－1－1DFを状況に応じて使い分けている。質・スピードが増してきている。攻撃時間の短縮、75～85％の攻撃が30秒以内に行われている。技術の成熟、戦術や新ルールの適用などがスピードアップの原因とみられる。同時に技術的なミスも多く見られる。ナショナルチームの準備期間が少ないこと、プレーのスピードが上がったこと、積極的なDFにより、DFがシューターに対して主導権を握っていることがミス増加の3つの理由である。基本的な技術として、1対1、ブロックプレーを伴ったグループ攻撃が大切。攻撃に対しての時間・圧力を増している。空中でのプレーに対しパス・クロスプレーの許容範囲を…。DFテクニックとしてボールを持った選手に対してアタックをかけることにより、より組織的なOFを崩すことができる。クイック・スローオフは、1997年にDr.ハッサン氏を始めとしてIHFが提案したが、最初に成功したのは韓国・日本である。エジプトなども多用している。DFが早く帰陣するのにより効果的。

5.ルール＆レフェリー

①パッシブプレー：ルールブック第4条。スローオフその他の遅延行為について、今まではレフェリータイムをとって対処してきたが、レフェリータイムは残り時間がない時など必要な時だけとるべきであり、パッシブプレーに対する正しいルールを思い出すべきである。各種スローの遅延があればすぐにシグナルで警告すべきである。攻撃中は一度だけ表示すべきである。攻撃後（7mスロー・フリースローを含む）GKにはね返り、ゴールポスト・クロスバーもしくは反則をせずに所持したら新しい組み立て局面を認めるべき。シグナルの後、16条にある罰則があれば新しいOFが認められるべき。

②シューターへ対しての側面や背後からの反則に対して罰則を与える時は、タイムアウトをとるべきである。

③ボディコンタクトをしないでゴールエリアに飛び込んでシューターの角度を阻止したりする行為に対して、レフェリーはもっと考慮すべきである。ボールをもっているプレーヤーに対してのスペースをつぶすDFに対しても同様である。

④早く怪我した選手を運び出すためにストレッチャーを使うこと。手に怪我した選手も早く指示して外へ出すこと。

⑤ステップのミスは、私にとっては大した問題ではないが、背の低い女性に対して、多くのミスが見られたので、改善が必要である。

6.今後

TV・メディアを使っていくべきである。野球から学ぶことが出来る。私にとって野球はハンドボールに比べてつまらないものだが、日本では…。私たちはいつでも、どこからでも学ぶことが出来る。（マーケティング・リサーチ）

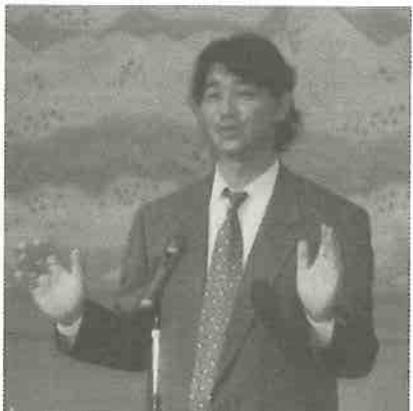
握りやすいボールの開発。松脂の改良：アディダス社が

ミストタイプのものを開発。

小さくて体重の軽い選手のカテゴリーの検討（まだＩＨＦとは詰めていない）。

秋田での2001年ビーチハンドボール：もっと促進・普及していきたい。

講習３：スペインの一貫指導

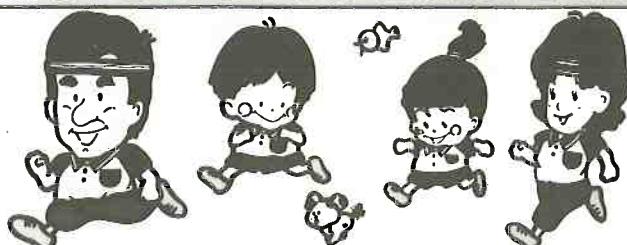
前 JOC 存外研究員　田中　茂

スペインの指導者のライセンス取得に要する時間は実技60時間＋講習60時間を経て、レポート・日誌の提出し、その上でテストをクリアしなければならない。

スペイン人から「日本人は、毎日３～４時間のトレーニングをして、なぜ世界チャンピオンになれないの？」と言われる。スペインでは、自分が100％出来なければ休んでいい。また出来る状態になったらやればいい。練習後にコーチは、「お前は今日、10分100％頑張った。明日は11分頑張ろう！」という。「７本のタバコを吸ったら、新しいタバコが１本出来る。49本のタバコを吸ったら、新しいタバコが何本出来る？」。答えは、７本ではなくて8本。ハンドボールをこうだと決めつけて見る固定観念が日本人には多い。「８本目は何か」という視点で子ども達を指導していくことが必要である。スペインでは、２時間練習することは絶対無い。シーズン前は山に入って、午前１時間、午後１時間、ミーティングは１時間30分と長い。選手同士の会話はたくさんある。指導者と選手の関係は、一方通行ではない。こんな事例があった。ＧＫからのワンマンパスが悪く速攻に出た選手がワンハンド・キャッチに失敗した⇒コーチである私は、その速攻に出たプレーヤーに「両手でキャッチしていたらミスを解決できたんじゃないか？」というと、「なぜＧＫを怒らないんだ！ いいパスがくれば１点とれてたのに」といって、決して御免とは言わない。日本人なら御免という人が多いのではないだろうか。果たしてそれで問題解決になっているだろうか？

対面パスをやる日本人チーム＝練習前の練習をやっているから３～４時間もかかる。１つの事を１つで終わらせず、５分で幾つのことをやれるか、複合的トレーニングを考えるのが、スペインのコーチ！ 例えば、シュートした瞬間⇒リバウンドに反応するトレーニングを考える。

基本的なＤＦは５－１ＤＦ（２：２、２：１がベースにある）。日本人には、観客が「考える時間を楽しむ」傾向があり、例えば野球、相撲、ゴルフなどがそうである。しかし、ヨーロッパではギリシャ古来の「走る・投げる・跳ぶという行為を競う」という考え方をしている。

「ナショナルに入る」だけでは、小さい夢。世界で活躍する＝お金を稼げる選手になりたいと思うのがヨーロッパの選手の夢。指導者が思わなければ…。そのような選手を育てるシステムが構築されているのがヨーロッパ。ＦＣバルセロナ（バルサ）はカテゴリーが分けられているが、１週間に１回すべてのカテゴリーの指導者が集まってミーティングする。日本では、高校や中学校にどんなに優秀な選手がいても、高校生は高校の、中学生は中学の大会にしか出場できないが、ヨーロッパでは17歳の選手がプロ１部リーグでプレーできる。4,000人～何千人の観衆の中でプレーできるのである。プロと一緒に練習していなくても、フォーメーションは同じことをやっているので試合で戸惑うことはない。

年間３試合のために毎日２～３時間も練習するのかわからない。インターハイ予選もリーグ戦にしてはどうかと提案したい。

第58回国民体育大会秋季大会速報

「NEW!! わかふじ国体」をテーマに第58回国民体育大会秋季大会が10月26日（日）～30日（木）まで、静岡県静岡市（静岡地区、清水地区）で開催された。連日熱戦が繰り広げられ、成年男子三重県、成年女子広島県、少年男子茨城県、少年女子愛知県が優勝した。試合結果はスコアールームに、詳しい報告は次号以降に掲載。

全国理事長会開催される

国体開催時に行われる全国理事長会議が、静岡市ホテル中島屋で10月25日（日）に開催された。会では、小学生チームの育成に力を入れている熊本県大宮強化部長、沖縄県宮城理事長、三輪情報委員長からそれぞれの県の取り組みについて資料を用いた詳しい内容が報告された。その後、7グループに分かれての現状と問題の討論、報告会が行われ情報が交換された。

大宮熊本県強化部長

宮城沖縄県理事長

三輪沖縄県情報委員長

小班に分かれての情報交換

初めての日本協会直売所出店

日本協会としては初めての日本協会グッズの直売所が静岡市中央体育館、静岡市北部体育館に設置された。販売所ではムササビTシャツ、マフラー、携帯ストラップ、キーホルダー、マグカップ、バックなどが販売され多くの選手、チーム関係者、観客が訪れた。販売所では、アテネオリンピック予選神戸大会で活躍した宮崎選手、内田選手（写真）など日本代表選手が店頭に立ち、気軽に購入して頂いたTシャツにサインに応じるなど交流を深めた。

日本協会直売店の様子

サインに応じる内田選手

桂宮殿下ハンドボール競技へ

10月27日（月）桂宮殿下が静岡市清水総合運動公園体育館を訪れ、少年女子石川県対鹿児島県のゲームを観戦された。ゲームは速攻有り、セット有りの激しくスピード感に溢れ、一点を争う展開となり興味深く観戦されている様子でした。ゲームの解説は大西専務理事があたる。

会場を訪れた殿下と出迎える稲森静岡県協会会長

観戦される桂宮殿下と説明する大西専務理事

集中連載① スペイン研修報告

前JOC存外研究員
田中　茂

高校、大学、日本リーグでトップ・プレーヤーとして活躍され、ＪＯＣの在外研究員としてスペインに留学され、今年帰国された田中茂さん（現日本ハンドボールリーグゼネラルマネージャー）のスペインレポートを今月号から連載致します。スペインで体験したクラブや、クラブチームの指導を自らの言葉で語って頂くことはきっと日本でも生かされることと思います。お楽しみにして下さい。なお、シリーズの内容予定は以下の通りです。

第１回　スペイン・ハンドボール紹介（今号）
第２回　FC BARCELONA の紹介、選手育成システム紹介（1/2 月号）
第３回　スペイン指導者育成システム、ライセンス取得コース紹介（３月号）
第４回　スペインナショナルトレーニングシステム紹介（４月号）　以降継続予定

◇プロフィール◇
田中　茂　1967年９月２日生まれ
長崎県佐世保市出身
長崎県私立瓊浦高校卒
筑波大学体育専門学郡卒（筑波大学在学中から全日本に選ばれる）
（株）三陽商会入社、退社（世界選手権、オリンピック予選、アジア大会、アジア選手権出場）
JOC 在外研修委員となる
スペインへハンドボールの指導・強化システムの勉強の為、留学。
スペイン研修中は FC BARCELONA B チームのコーチを任され、チーム指導とともに、スペインでのコーチライセンス取得コースに入り、指導者ライセンスを取得。

1）スペインハンドボールの紹介

スペインリーグは（次頁別表参照）トップリーグを中心にピラミッド方式のリーグ構成になっており、３部にあたるナショナルリーグはスペインを４分割した地区のリーグ戦となっていて、３部のナショナルリーグ以下のチームは各州ごとにリーグ戦が行われ地域協会が管轄し運営を行っている。そのチーム数は各協会によって違うが､チーム数は非常に多く、今回は、私が所属していたカタルーニャ州のカテゴリーを別表に記載しております。

リーグはどのカテゴリーも９月下旬から始まり翌年の５月中旬までの長期にわたりシーズンインとなり、試合はホーム＆アウェーの２試合総当りの試合システムをとっている。

５月中旬以降は各カテゴリーの入れ替え戦が行われ、試合会場は入れ替え戦を行うチームが、試合を有利にするために試合会場の権利を買う方式を採用している。

その他に国内カップ戦がリーグ戦の合間に開催される。

９月　SUPER COPA
　　前年リーグ戦１位 VS　COPA REY １位の対戦
12月　COPA ASOBAR
　　リーグ戦15節終了時点の上位４チームが出場
５月　COPA REY
　　リーグ戦最終順位の上位８チームが出場

また、リーグ戦以外に１部リーグには、前年の成績上位チームに出場権が与えられる、ヨーロッパクラブ選手権（COPA DE EUROPA 、COPA EHF 、RECOPA）の各大会も国内リーグ戦と同時期開催で、ホーム＆アウェーでの試合を行っていくため、スケジュール的にもハードなシーズンを過ごすことになる。

2）昨年のヨーロッパクラブ選手権成績

・COPA DE EUROPA は PORTLAND SAN ANTONIO が準優勝
　（ジャクソン・リシャーソン、ヤキモビッチ、ヨバノビッチなどの選手所属）
・COPA EHF は FC BARCELONA が優勝
　（マシップ、スクルビッチ、チェプキン、フェルナンデスなどの選手所属）
・RECOPA は CIUDAD REAL が優勝
　（ドゥイシェバイフ、エントレリオス、コールマン、サキなどの選手所属）

ヨーロッパクラブ選手権でも各国代表クラブを抑え優勝、準優勝とスペイン自体のレベルは非常に高く、今期も昨年以上に海外からの選手がスペインでプレーし世界でもっともレベルの高いリーグへと成長している。

リーグ戦は各会場4000～10000人の観衆がホームチームが勝利するために、さまざまな応援やチームのバックアップを行う。

アウェーチームの攻撃の際には、ものすごいブーイングなどでプレッシャーを与え、ホームチームのプレーに対しては選手を勇気づける応援によって、選手が高いモチベーション

昨期のスペインリーグ（ASOBAL）
FC BARCELONA　VS　CIUDAD REAL
（FC BARCELONA リーグ優勝、CIUDA REAL リーグ２位）

FC BARCELONA　VS　PORTLAND SAN ANTONIO
観客はどの会場も満員で、観客の熱狂的な応援が続き、選手以上に興奮している

を１試合通して保つ事ができる。

なかには、観客が興奮し過激な応援となり、アウェーの選手は当然であるが、それ以上に審判がブーイングの対象になることも多く、ハーフタイム、試合終了時にはガードマンが審判を取り囲みガードする光景を多く見る。

試合会場は常に熱気が漂う独特な雰囲気のなかで試合は行われ、観客は試合を見るのではなく、試合にどんどん入っていくと言った表現があてはまる。

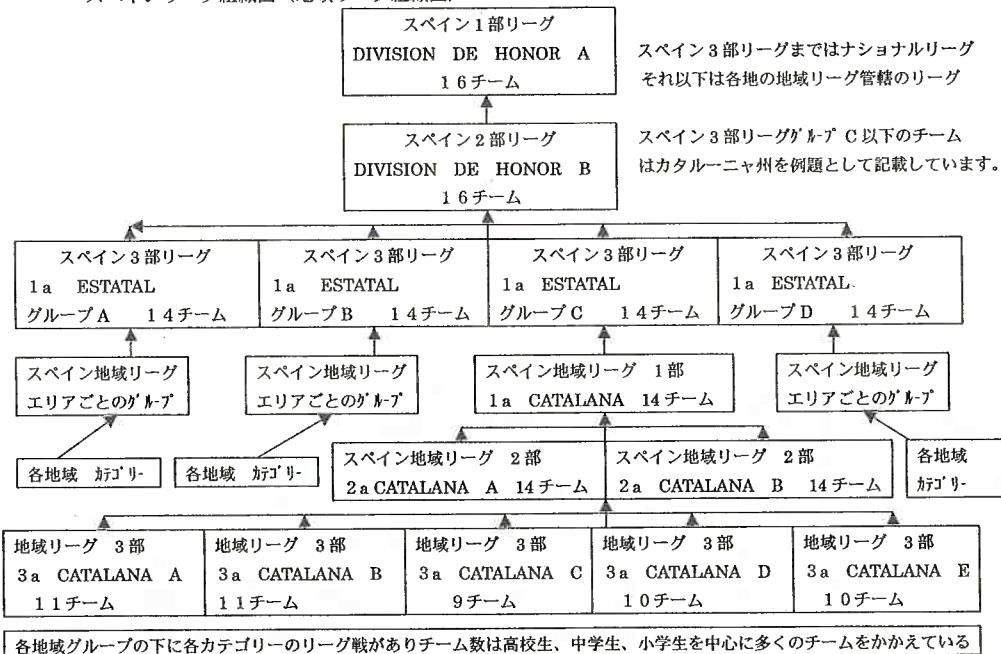
3）選手登録枠

また、スペインリーグはベンチ登録14人で構成され、また、自チームの選手であれば年齢に関係なくトップリーグでの試合出場が可能であり、16・17歳の選手でも優秀な選手ならばカテゴリーの枠を超えてプレーを行うことができる。

これは、選手の年齢等の枠が無く、優秀な選手は常にトップリーグでプレーができ、選手のモチベーションを常に高い位置で保つ事が可能なシステムであるし、選手を育成していくための経験の場を与えることでも最善のことである。

スペインリーグ組織図（地域リーグ組織図）

新イベントに期待

企画・広報委員
早川　文司

日本リーグは熱戦の真っ最中。混戦が予想された今シーズンだが、上位、下位が序盤からはっきり色分けされた様相を呈した。しかし、これからがプレーオフ進出への天王山。激しい熱のこもった戦いが随所に展開されることだろう。なかでも来年2月に行われる世界選手権予選を控える男子は1月中旬までが勝負。世界選手権予選後には各チーム1試合しか残っていないだけにいずれも「年内勝負」に照準を絞っての戦いと言えるだろう。大詰めを迎えた男子のせめぎ合いにとりわけ注目が集まる。

それはともかく、今シーズンは2つのイベントが復活、新設される。久しぶりの「夢対決」オールスター戦はプレーオフ後に行われるが、どんな選手が、どんなプレーでファンを沸かせてくれるか今から楽しみである。選手には選出されることを誇りに思い、レギュラーシーズンから積極的なプレーでアピールしてもらいたいものだ。

と同時に、ファンを裏切らない「さすが日本のトッププレーヤー」と言わせる高度で熱いプレーをコート上に発揮してくれることを期待している。

新設のイベントは「チャレンジ・リーグ」である。先に述べたように男子は世界選手権予選のため1月中旬から中断する。このブランクを埋めるため日本リーグのチームと各地域の学生チームとリーグ戦を行うもの。

現在、トップリーグと学生が顔を合わせる大会といえば全日本総合選手権があるが、今回、注目される点はリーグ戦形式が採用されたことだ。

トーナメント形式でなく、リーグ戦となれば試合数も増える。技術交流はもちろんレベルアップにはこの形式は欠かせないものである。トーナメントと異なり多くの戦いの場があるわけで、これは双方にとってプラス材料が待ち構えているといって間違いはない。

今後も継続して実施するということだが、いわば今回は試金石といっていいだろう。活発な交流、戦いの場にすることが大切である。

特に学生側にはまたとないチャレンジのチャンスである。トップレベルと同じコートで戦える喜びを前面に出してもらえれば、必ず日本のハンドボール界のレベルアップにつながることだろう。「あすを担う若手発掘」のチャンスでもあろう。せっかくのアイデアだ。さらに膨らませることが大切である。

平成14年度　日本協会表彰行われる

清水氏の代理で表彰状を受け取る駒林北海道理事長

永年ハンドボールの普及と発展に貢献した個人、団体の功績に報いると共に、今後の発展に資する目的で日本協会では表彰規程を設けている。

平成14年度は所属都道府県協会、連盟からの推薦を受けて以下の方々を表彰した。

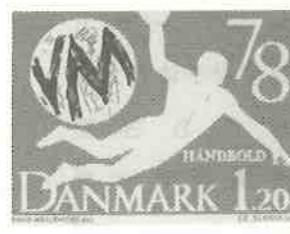
表彰式は平成15年９月25日(木)、国体開催の地、静岡県静岡市ホテル中島屋に於いて行われた全国理事長会の席で行われた。

推薦団体	表彰者（年令）	所属先	役職	備考
北海道	清水幸彦(74)	清水桜ケ丘病院長	会長	永年に亘り会長として普及、発展に貢献。
宮城	千田文彦(59)	千田換地計画研究所	理事長(東北協会)	自協会の組織化に尽力、確固たる基盤確立。
群馬	青柳五十雄(61)	県立近代美術館	参与	30年間、県協会・高体連の中心役職。
東京	島田房二(58)	都立千歳丘高校	参与	各種大会運営及び指導者・審判として活躍。
神奈川	新木康稔(60)		副参与	永年に亘り役員として組織、発展に尽力。
山梨	後藤敏男(67)		参与	後進の指導と協会発展のため尽力。
富山	櫻打佳浩(37)	氷見市立北部中学校	強化部副部長	全中大会で、チームを優勝させた指導者。
富山	金原理博(40)	県立氷見高校	理事	各種全国大会で、チームを優勝させた指導者。
愛知	板倉孝雄(55)	県立常滑北高校		東海協会審判長として、協会の発展に寄与。
愛知	本多光雄(55)	岡崎城西高校	岡崎協会理事長	県協会理事・常任理事として発展に寄与。
岐阜	浅野清(76)	サンケミカルグループ	前会長	25年に亘り副会長、会長として組織運営に貢献。
滋賀	前川和三(55)	県立彦根翔陽高校	副理事長	県内の３高校にハンドボール部を創設強化に貢献。
大阪	中村博幸(52)	府立大冠高校	理事長	永年に亘り、指導、大会運営に貢献。
岡山	永井忠和(60)	倉敷市教育委員会	参与	永年に亘り、普及、指導に貢献。
香川	石原達夫(62)		常任理事	永年に亘り、指導・強化に貢献。
福岡	山形久(66)			永年に亘り、指導・普及に貢献。
佐賀	綿島正登(77)		顧問	永年副会長として指導者育成・発掘に貢献。
長崎	藤井寛(59)	県立佐世保高校	理事長	永年に亘り、普及・審判・強化に貢献。
大分	疋田忠(77)		顧問	県協会の創設者。中心的存在として貢献。
教職	島崎政治(61)		審判委員長	審判長として活躍。マスターズ大会の運営に貢献。
学連	市川孝夫(65)		九州学連副会長	永年九州学生界の指導者として貢献。
高体連	井上亮一(55)	夙川学院高校	常任委員	永年全日本女子ジュニア監督（強化）として貢献。

◆ハンドボール・アラカルト◆　切手に見るハンドボール（３）

今号では、デンマーク留学中の村松誠参事のレポートを掲載しておりますので、それにちなんでデンマークのハンドボール切手を紹介しましょう。

デンマークはハンドボール発祥の地。国際ハンドボール連盟はハンドボール発祥の地論争に「1990年、世界で最初のハンドボール試合は1896年夏、デンマークのフェーン島東端ニュボルで行われた」ことを、証明する文書などを添えて発表、長い間の議論にピリオドを打った。((財) 日本ハンドボール協会創立60周年記念誌：書き残し「ハンドボール史」より抜粋)

このためは、2003年に発行された通常切手にボールを持ったハンドボール女子プレーヤーの顔（写真左）が使われています。このシリーズにはハンドボール以外にもサッカー、水泳、体操の図案があります。日本では鳥や花などの自然が図案化されていますが、お国柄なのでしょうかスポーツの盛んな様子がわかります。もう一種類デンマークのハンドボール切手（写真右）を紹介します。「HANDBOLD」と書いてあります。

（1978年、第9回世界選手権）

平成15年度　第55回全日本総合ハンドボール選手権大会

第55回全日本総合ハンドボール選手権大会が、以下の日程、組み合わせで広島県東区スポーツセンター、中区スポーツセンターを会場に開催される。

開催期日　平成15年12月17日(水)～21日(日)

競技日程				
第１日	12月17日(水)	男子１回戦４試合	女子１回戦４試合
第２日	12月18日(木)	男子２回戦４試合	女子２回戦４試合
第３日	12月19日(金)	男子３回戦４試合	女子準決勝２試合
第４日	12月20日(土)	男子準決勝２試合	女子決勝戦
第５日	12月21日(日)	男子決勝戦	

決勝戦は、男女共ＮＨＫテレビで生中継。
ただし、女子決勝は中国地区のみ、男子決勝は全国放送されます。

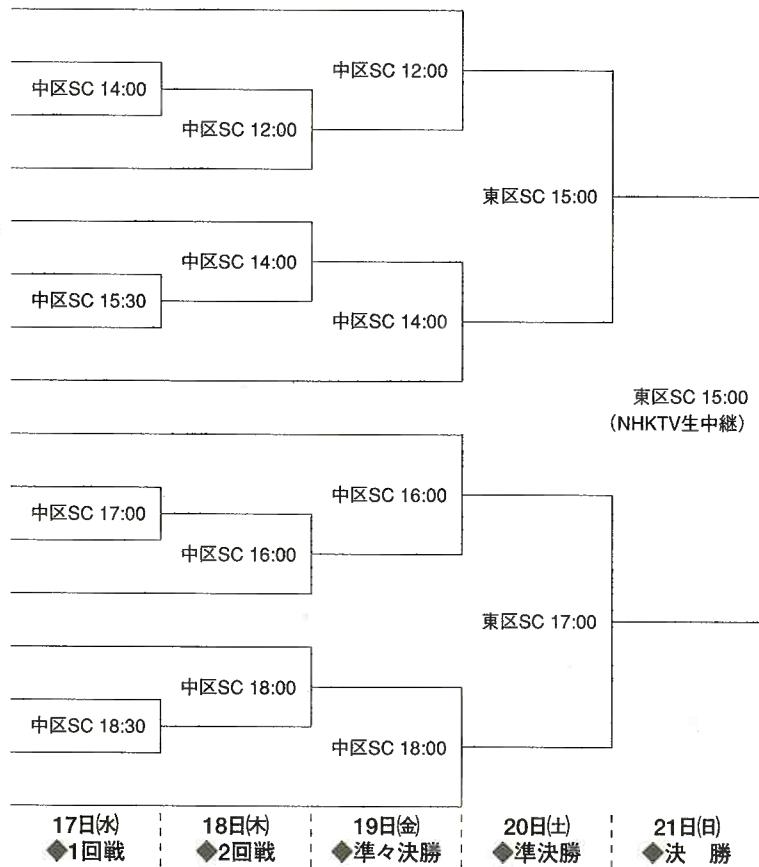
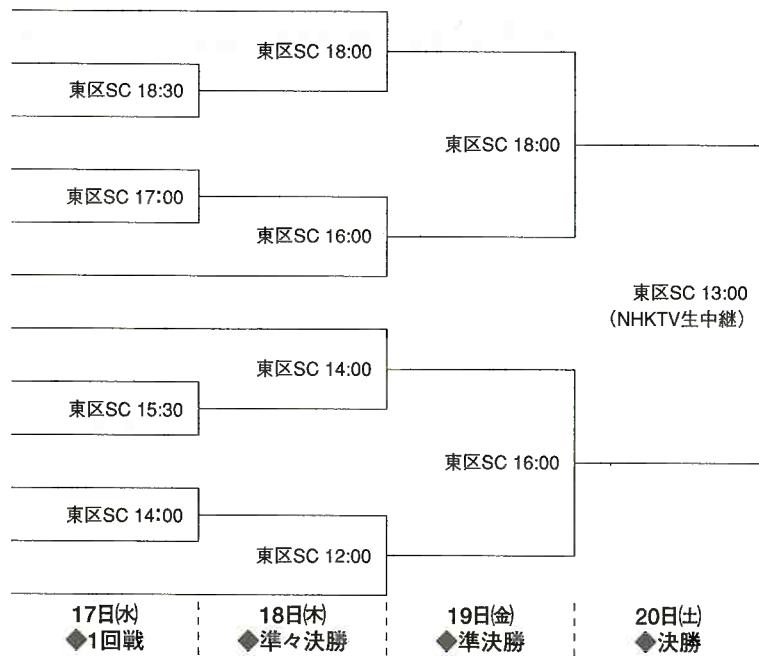
■男子組み合わせ表

1 ホンダ
2 HC岡山
3 中部大学
4 北陸電力
5 ホンダ熊本
6 トヨタ自動車
7 日本体育大学
8 大崎電気
9 大同特殊鋼
10 国士舘大学
11 MAX
12 トヨタ車体
13 アラコ九州
14 豊田合成
15 香川クラブ
16 湧永製薬

■女子組み合わせ表

1 広島メイプルレッズ
2 武庫川女子大学
3 HC岡山
4 ソニーセミコンダクタ九州
5 筑波大学
6 オムロン
7 シャトレーゼ
8 東京女子体育大学
9 HC名古屋
10 大阪教育大学
11 MIE Violet' IRIS
12 北國銀行

NTS2003報告

NTSコーディネーター　栗山雅倫

全国９ブロックで開催されたブロックトレーニングも無事終了し、先日のＮＴＳジェネラルミーティングで、各ブロックからの報告がなされました。

年を追うごとに充実してきた反面、更なるステップアップも求められているようです。続けてステップアップできるよう、努力工夫を重ねてまいりたい所存です。

さて、今回はセンタートレーニングの開催についてのお知らせと、岩手県花巻市の地域版ＮＴＳについての紹介です。

【センタートレーニング】

U19：12月23･24日
　男子・大同特殊鋼　女子・ブラザー工業
U16：１月10･11日
　男子・大同特殊鋼　女子・ブラザー工業

【岩手県・花巻市の試み】

岩手県花巻市では、本年より、花巻版ＮＴＳを試みています。行政のバックアップを受けて、地域シンボルスポーツの一環としての事業ですが、県内でのマスメディアへの露出度も高く、大変注目すべき事例です。

仕掛け人の中島昭博教諭（県立花巻北高等学校）のハンドボールにかける情熱はもとより、地域の関係者の意気込みは並々ならぬもので、今後の花巻市の充実に、大きい期待が寄せられています。また、中島氏は一貫指導を幅広く捉えており、様々な事業の招聘を視野に入れ、少年少女により良い刺激を提供することを目指しています。既に招聘が決定している「全日本マスターズ大会」をはじめ、ナショナルチーム合宿の招聘等も積極的に考えているようです。

一貫指導体制も、花巻市独自で行うだけでなく、現在全国展開しているＮＴＳを積極的に活用し、地域だけにとどまらず、全国的に通じるもの、そして、ＮＴＳの地域での普及にも配慮をしながら実施してくださっています。

そもそもＮＴＳの狙いの一つとして、競技力向上の為に、どこでも質の高い指導が提供できる環境作りがあげられると思います。サッカーで言えば、かつての静岡県のような土壌を全国津々浦々で展開できるようになれば理想です。すなわち、この花巻市での実践が、ハンドボールＮＴＳのモデルになりうる可能性が高いとも言えるでしょう。ぜひこの様な流れが、全国的に広まっていければ…と願っております。

以下、今年度、花巻市の地域シンボルスポーツ推進事業のスケジュールです。

コンディショニング講習会	NATA公認トレーナー　佐々木健次氏	５月10日
花巻地域小学生ハンドボール教室	計５回	５月12日～６月９日
強化合宿	シャトレーゼコーチ　藤本元氏	５月23日～25日
小学校ハンドボール研究集会兼Ｊ級指導員養成講習会	日本ハンドボール協会常務理事　角紘昭氏、HC名古屋監督　田中俊行氏	６月14、15日
花巻ハンドボールフェスティバル	元オリンピック選手　首藤信一氏、矢内浩氏、玉村健次氏	６月28、29日
全国優勝の鹿骨中学校チーム招待試合		
花巻版NTS講習会	NTSコーディネーター　栗山雅倫氏	10月４、５日
湯沢市・花巻市中学校３年生交流試合		12月６日
ハンドボールキャラバン	ハンドボールの無い小中学校訪問→普及	11月～３月

海外レポート

EHF periodical 1/2003 より

学校におけるハンドボール

Jesus Guerrero（POR）EHF 指導委員会メンバー
（財）日本ハンドボール協会参事（海外情報） 村松 誠（駒沢大学）／翻訳

ＥＨＦ（ヨーロピアンハンドボール連盟）が、２００３年５月にピリオディカルという定期刊行物を出版しました。これは２００３年第１号です。この中の「学校におけるハンドボール」という一文に興味を持ちましたので、翻訳してみました。
ヨーロッパでは、スポーツはクラブ組織で行われており、この中にもあるように、13万以上のクラブで250万人以上がクラブでハンドボールをプレーしています。ご存知のとおり、ハンドボールの強豪国はヨーロッパに集中しており、その基盤も確かなものと思われます。
しかしながら、EHFでは更なる発展の基盤に学校でのハンドボールを目標にしているようです。この一文からその姿勢が伺えますし、この中の考え方は大変重要なものであると思います。

1．序言

EHFは、より若い世代のためのハンドボールの発展、コーチのより多くのエネルギー集めること、子供の基礎的ハンドボールレベルに寄与し、将来のスターを教育し、子供の倫理的、道徳的発達を支援する仕事を集中的にした。スポーツは人々の教育に寄与する要素である。

今のヨーロッパでの学校におけるハンドボールの状況はどうであろうか？ ハンドボールは学校における第１のスポーツではない。（いくつかの例外はあるが）バスケットボールやバレーボールのような他のスポーツは、よりよい位置付けである。これはEHFがヨーロッパの各協会に調査を行った結果である。異なった国からの28回答を分析した結果、現状は次のように要約された。情報なし、教師のモチベーションと地域でのセミナーのような組織からの支援がないか最小である、十分な体育館がない、教師に経験がない、教師の興味がない、ハンドボールの用具がない…。

学校におけるハンドボールについて、EHFの意思はどうであろうか？ この重要な領域に、ハンドボールに参加する数を、各国協会とそれぞれの国の教育組織体と一緒に改善することであるが。それはたったひとつのEHFと46のヨーロッパのメンバー協会であることを忘れてはいけない。わたしたちは、Alejandro Dumasのスローガンに寄与しなければならない。

“すべてに人はひとりのために、そして、ひとりはすべての人のために”

学校におけるハンドボール発展ためのＥＨＦの努力によって、シンポジュウム「学校におけるハンドボール」は、２００２年４月25日から27日まで、ＩＳＦ（国際学校連盟）競技会（Thessaloniki、ギリシャ）の期間中に開催された。これはＥＨＦがこの種のシンポジュウムを組織し、学校ハンドボールの問題に注意を喚起した最初であった。この催しはすべてのコーチ、教師、アドバイザーと学校年代の子供に関与する学校の権威者からの代表者に開放されていた。総数350人の登録者は、７つの異なった国、主にギリシャからの出席者で行われた。

朝夕のワーキングセッションは、理論的、実践的な練習を含め、数人のEHF講師によって行われた。異なった国の学校ハンドボールの現状は同様に説明された。

シンポジュウムの目的は、学校ハンドボールの領域における最近の発展について多くの発見をする機会を参加者に提供することだった。シンポジュウムは、若いコーチ達と学校の子供達に、フェアーでスピーディーなゲームであるハンドボールの精神を経験し、われわれのスポーツ、ハンドボールを愛することが育つ可能性を提供する第１歩だった。

2．学校ハンドボールにおけるEHFの役割

13万のクラブと250万人以上のプレーヤーを中心として、ヨーロッパ・ハンドボールファミリーが作られている。しかし、われわれは小さな集団でしかない。そして、未来のハンドボールプレーヤーの潜在的集合体が構成されている大きな部分を忘れている（ピラミッドの概念を忘れてはいけない）。それは小学校。

◆小学校、この問題の言葉に、EHFは何ができるか？

“学校の先生をどのようにハンドボールファンにするか？”（学校の少年少女がハンドボールをプレーする）

◆この目的を達成するためどのような必要性があるか？

学校におけるハンドボールの普及促進に必要不可欠である教育用具を作り出すこと

◆学校の少年がハンドボールをプレーすることに興味を持つようになるために、何を差し伸べるのが正しい方法なのか？

ハンドボールファミリーは、適切に確立され運営されているスポーツ学校教育に関係するすべての組織体間の連携を確保しなければならない。

教育者は各分野のリーダーである。EHFと各国協会は、ハンドボール普及促進の発展性に影響する重要な一部分である環境として、教師と児童との間の推進役にならなければならない。教育用具は、このレベルのハンドボール普及にとっ

て必要不可欠である。公的組織体は、われわれがピラミッド構図を実行する基盤を実現することを望んだら、教育者に幅広い情報を提供する義務を持っている。

それぞれの国は、自国のアイデンティティーと教育計画を持っている。それで、EHFと各国協会は、それらの特異性を保ちつつハンドボール活動を向上させる手助けをしなければならない。

図1は成功への道のりである。もし、われわれのスポーツに参加するすべての関係者が、同じ方向で働けば、われわれの目標、学校の少年に届くことは可能である。

EHF
↓↑
各国・地域協会
↓↑
各国・各地域・教育組織体
↓↑
学校の中核
↓↑
教師

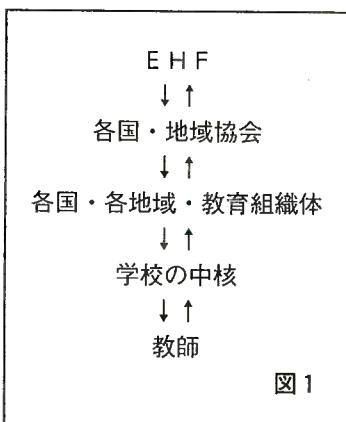



図1

Thessaloniki2002の結果は、いくつかの国の学校におけるハンドボールの状況を理解するために、明らかにされた。そして、それらはヨーロッパ全体に適用することができた。

調査報告書は、教育に直接関係する人からのフィードバックを受け取るために、シンポジュウムの最後に配布された。4つの質問が提示され、参加者の回答は、学校教育の教育者である報告者と、EHF・各国協会の間連携の弱点をはっきりさせた。

質問は次のとおり。

【第1の質問】
“教師・報告者は、あなたの毎日の仕事に関して、協会の支援に対する評価はどんな評価ですか？”
９４％の回答　国の協会からの支援はなし
３％の回答　スポーツ学校だけ確かな支援を受ける
２％の回答　はい、十分な用具があります
１％の回答　国の協会の支援は向上している

【第2質問】
“あなたの具体的仕事のために、あなたの協会からの支援の理想的な形はどのようなものですか？”
９０％の回答　より多くの講習会、このようなシンポジュウム、低価格な学校のための用具の供給（本、ビデオ、ボール、よい事例）
６％の回答　学校状況の中のセミナー、講習会
２％の回答　体育館
２％の回答　教師のためのモチベーション

【第3の質問】
“あなたは、学校におけるハンドボールの科目に利用できるEHF用具について知っていますか？”
９８％の回答　いいえ、それは何がありますか？
２％の回答　はい

【第4の質問】
“EHFは、あなたの学校における仕事をどのように手伝うことができますか？”
この質問については、幅広い回答があったが、主に情報の不足に集約される。
いくつかの回答は次のようであった。
○教師への提供支援（情報と用具）
○学校に用具を配布する各国協会の影響力と支援の努力
○このシンポジュウムのような、6から12歳の間の子供ための多くの講習会
○自国語の用具
○各国協会との緊密な協力関係
○この調査の後、次の結論が明らかになった：児童と教師は存在し、彼らは公的機関からの援助を待っている。しかし、それぞれ異なった理由でこの援助は、教育現場まで届いていない。
※EHFスピーチ後の感想：だれもEHFのウェブサイトとウェブサイトから無料情報を得ることが出来ることを知らなかった。

3．どのように現在の状況を改善するか

次の３つの柱（図2）は、学校におけるハンドボールを改善するための目標を支える。

普及促進（プロモーション）
情報
資源：人と用具　図2

各国協会とEHFにとって学校におけるハンドボールを改善することは、困難はあるが、すばらしい仕事である。そのためには、ハンドボールの専門家と学校領域間のコミュニケーションを滑らかにする。この目標において、EHFは、エキスパート、用具、教科書、リーフレットなどの資源基盤を用いて、この関係の推進役にならなければならない。われわれが言わなければならない理論的な回答は、学校におけるハンドボールを向上させるために、次の2003・2004年の間に何をしなければならないだろうか？と言うことである。

この３つの主要な領域にふれる前に、関係あるいくつかの潜在的な仕事がある。それは、以下の３点（図3）である。ヨーロッパ・コミュニティーとそのメンバーのパートナーシップで、好機はEUプロジェクト“European Year of Education through Sport 2004（スポーツを通してのヨーロッパ教育年）”のため、早く行うことが含まれている。

○イベント（地方学校の特別普及促進）
○フェスティバル（全国と地方レベルで）
○ハンドボールスクールデー（すべてのヨーロッパ諸国のための、ヨーロッパの新構想、３万以上の学校の少年少女が2004年の特定の日にハンドボールをプレーする）
図3

4. 情報

EHFと各国協会の具体的な本。自国の言葉による特別な情報（現在の問題のひとつ）。早くて安い方法（インターネット）を通して利用できる、役に立つ情報と新構想をすべての国に広める。

> 例
> ○ミニハンドボール
> ○ＥＨＦハイスコアーボール　訳注)
> ○基礎ハンドボール
> ○ハンドボールブック
> ○ビデオ
> ○スペシャルガイド“どのように教師に届くか？”
> 簡単なゲーム、簡単なルール、彼らに対してのモチベーション
> ○実技練習“どのようにハンドボールをプレーするか？”
> ○ガイド“どのようにあなたの学校でフェスティバルを組織するか？”
> ○ハンドボールクラブと学校の協力、トッププレーヤーのクリニック

情報資料について、EHFは“ハンドボールの段階事例”を開発した。それは、５～６歳から14歳までの期間をカバーする長い作業である。この作業の基本概念は、子供達の年代を基準として、子供の生理学的、身体的そして行動特性にゲームを適合させるためである。子供に技術的・戦術的ハンドボールの教え方を本などで提供するより、異なった経験と適切な情報を提供するほうがより重要である。喜び、モチベーション、面白み、楽しみと積極的な経験は運動するための筋肉と心理的発達の機会を子供達に提供する。ミニハンドボールと基礎ハンドボールの本のハンドボールガイドとビデオは、子供達の発達に必要な期間をカバーするためのＥＨＦによる発育用品である。そしてそれらは、教師が子供達のクラスにハンドボールを紹介することを､容易にするものである。

5. 人的資源

○EHFレクチャラー（十分な専門家ではない）
○それぞれのヨーロッパのメンバーは、この領域に信頼できる活動ができる人を指名しなければならない。
○EHFと各国との間は（インターネットを通して）直接連携

6. 用具の資源

ヨーロッパレベルにおける協力関係を成功させるために、スポーツ用品会社（NIJHA，アディダス）との緊密な協力関係を作る必要がある。例えば、“ハンドボールスクールパッケージ”を特別に創作する。どのようにハンドボール活動をはじめるかについての情報と用具を含み、低価格で提供することが重要である。

> パッケージに含まれる用具
> ○ゴール（正規だがミニハンドボール用に適したもの）
> ○ボール（異なった大きさ）
> ○トレーニング用品
> FLOW MARKETS 訳注)
> メーカーのコーンとメーカーのスポット
> ＥＨＦハイスコアーボール用具：シュート版、シュートスポット、など

7. 最後に

われわれのスポーツの未来のため、これまで述べられたすべての活動と作業が、この重要な領域にハンドボールを正しく発展させるための出発点となることを望み、また、なってほしいと思う。

訳注）（アラン・ルンド氏より説明を受けました）
EHFハイスコアーボール：少年・少女用の新しいハンドボールゲームで、セット制で行われます。ヨーロッパユース選手権でテストをするようです。ビーチハンドボールがヒントになり、前半でモチベーションを失わないように考えられたとのことです。特に若い世代は、試合を諦めるのが早いので。

FLOW MARKETS：これについては情報がありません。

第28回日本ハンドボールリーグ日程表（第9週～最終週）

※女子ナショナルの世界選手権出場に伴いリーグ日程が変更されます。詳細は日本リーグHP又は日本協会へお問い合わせ下さい。12月6日(土)鹿児島県国分市総合体育館14：00～ソニー対HC名古屋は延期になります。

週	月日	開催地都道府県	会場	1部男子		1部女子		2部男子	
				時間	組合せ	時間	組合せ	時間	組合せ
9	2004年1月10日(土)	愛知県	枇杷島スポーツセンター	13:00	大同特殊鋼vsHC東京				
		兵庫県	大阪ガス今津総合グランド					15:00	大阪ガスvs北陸電力
	1月11日(日)	熊本県	熊本県立総合体育館	13:30	ホンダ熊本vs大崎電気			15:10	トヨタ自動車vs豊田合成
	1月12日(月)	京都府	山城総合運動公園(太陽ヶ丘)体育館	15:00	ホンダvsアラコ九州				
		広島県	東区スポーツセンター	14:00	湧永製薬vsトヨタ車体				
10	1月16日(金)	東京都	駒沢屋内球技場	18:30	HC東京vs湧永製薬				
	1月17日(土)	埼玉県	八潮市立鶴ヶ曽根体育館	14:00	大崎電気vsホンダ				
		愛知県	刈谷市体育館	15:00	トヨタ車体vs大同特殊鋼				
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15:00	アラコ九州vsホンダ熊本				
11	1月24日(土)	山梨県	塩山市民体育館			18:30	シャトレーゼvsソニー		
		福井県	北陸電力福井体育館フレア					13:00	豊田合成vs大阪ガス
								14:20	北陸電力vsトヨタ自動車
	1月25日(日)	石川県	小松総合体育館			14:20	北国銀行vsオムロン	11:00	トヨタ自動車vs大阪ガス
								12:40	北陸電力vs豊田合成
12	1月31日(土)	鹿児島県	出水市総合体育館			13:00	ソニーvsメイプルレッズ		
	2月1日(日)	茨城県	ひたちなか市総合体育館			12:00	シャトレーゼvs北国銀行		
13	2月8日(日)	愛知県	ブラザー工業体育館			15:00	HC名古屋vsオムロン		
14	2月14日(土)	石川県	金沢市総合体育館			13:00	北国銀行vsソニー		
		広島県	東区スポーツセンター			14:00	メイプルレッズvsHC名古屋		
	2月15日(日)	熊本県	松橋町体育文化センター			14:00	オムロンvsシャトレーゼ		
15	2月21日(土)	熊本県	熊本県立総合体育館			16:10	ソニーvsシャトレーゼ		
						17:50	オムロンvs北国銀行		
	2月22日(日)	熊本県	熊本県立総合体育館			13:00	HC名古屋vsソニー		
						14:40	メイプルレッズvsオムロン		
16	2月28日(土)	広島県	東区スポーツセンター			14:00	メイプルレッズvs北国銀行		
	2月29日(日)	山梨県	小瀬スポーツ公園体育館			14:00	シャトレーゼvsHC名古屋		
		熊本県	山鹿市総合体育館			13:00	オムロンvsソニー		
17	3月6日(土)	愛知県	枇杷島スポーツセンター	13:00	大同特殊鋼vs大崎電気				
		愛知県	半田市体育館			13:30	HC名古屋vs北国銀行		
		三重県	鈴鹿市体育館	14:00	ホンダvs湧永製薬				
		広島県	東区スポーツセンター			14:00	メイプルレッズvsシャトレーゼ		
		佐賀県	アラコ九州クレインアリーナ	15:00	アラコ九州vsHC東京				
	3月7日(日)	熊本県	山鹿市総合体育館	11:00	ホンダ熊本vsトヨタ車体				

入替戦	月日	開催地	会場	時間	内容
入替戦	3月19日(金)	東京都	駒沢体育館	17:00	男子入替戦第１日（１部７位vs２部１位）
	3月20日(土)			12:30	男子入替戦第２日（１部７位vs２部１位）

プレーオフ	月日	開催地	会場	時間	内容
プレーオフ	3月20日(土)	東京都	駒沢体育館	15:00	女子プレーオフ準決勝
				17:00	男子プレーオフ準決勝
	3月21日(日)			未定	女子プレーオフ決勝
				未定	男子プレーオフ決勝

スコアールーム

第58回国民体育大会

開催期日：平成15年10月25日(土)、26日(日)、27日(月)、28日(火)、29日(水)、30日(木)
会　　場：静岡市中央体育館、静岡市北部体育館、静岡市立高等学校体育館、静岡市清水総合運動場体育館、東海大学付属翔洋高等学校体育館、静岡市立清水第二中学校体育館

【成年男子】

■1回戦
静岡県 17（5－7、12－8）15 山梨県
大分県 33（15－14、18－13）27 滋賀県
茨城県 21（11－10、10－9）19 石川県
大阪府 27（12－14、15－12）26 岩手県
福島県 30（12－8、18－7）15 岐阜県
愛媛県 21（9－9、12－6）15 北海道
神奈川県 28（13－13、15－14）27 青森県
京都府 26（12－11、14－11）22 富山県

■2回戦
広島県 29（22－10、7－7）17 静岡県
岡山県 46（20－11、26－16）27 大分県
熊本県 21（8－11、13－8）19 茨城県
愛知県 36（15－9、21－13）22 大阪府
埼玉県 40（19－7、21－8）15 福島県
佐賀県 30（13－6、17－10）16 愛媛県
神奈川県 27（13－8、14－11）19 香川県
三重県 42（18－5、24－3）8 京都府

■準々決勝
広島県 37（18－8、19－12）20 岡山県
愛知県 25（10－9、15－9）18 熊本県
埼玉県 30（13－8、17－10）18 佐賀県
三重県 31（18－8、13－9）17 神奈川県

■準決勝
広島県 28（15－10、13－13）23 愛知県
三重県 29（14－7、15－14）21 埼玉県

■3位決定戦
埼玉県 26（11－14、15－11）25 愛知県

■決勝戦
三重県 22（13－9、9－6）15 広島県

■最終順位
優勝：三重県
2位：広島県
3位：埼玉県
4位：愛知県

【成年女子】

■1回戦
山梨県 35（14－5、21－6）11 宮城県
静岡県 26（14－6、12－7）13 北海道
広島県 33（15－8、18－6）14 京都府
東京都 24（15－12、9－10）22 大分県
石川県 24（15－7、9－9）16 岩手県
鹿児島県 26（13－8、13－13）21 香川県
茨城県 29（18－9、11－15）24 三重県
熊本県 26（14－9、12－13）22 兵庫県

■準々決勝
山梨県 37（19－7、18－5）12 静岡県
広島県 15（5－8、10－6）14 東京都
鹿児島県 24（12－7、12－12）19 石川県
熊本県 24（13－5、11－8）13 茨城県

■準決勝
広島県 21（14－11、7－8）19 山梨県
熊本県 22（13－9、9－9）18 鹿児島県

■3位決定戦
山梨県 32（17－10、15－15）25 鹿児島県

■決勝戦
広島県 20（8－12、12－7）19 熊本県

■最終順位
優勝：広島県
2位：熊本県
3位：山梨県
4位：鹿児島県

【少年男子】

■1回戦
京都府 23（13－8、10－9）17 沖縄県
神奈川県 31（14－10、17－14）24 三重県
愛知県 28（12－6、16－10）16 秋田県
茨城県 26（11－16、15－9）25 山口県
埼玉県 25（11－8、14－9）17 岩手県
香川県 38（15－5、23－7）12 北海道
大阪府 19（8－7、8－9）18 静岡県
（0－1延長3－1）
福井県 28（15－13、13－13）26 大分県

■準々決勝
京都府 24（11－13、13－7）20 神奈川県
茨城県 26（12－14、14－10）24 愛知県
香川県 24（13－13、11－10）23 埼玉県
福井県 25（13－13、12－11）24 大阪府

■準決勝
茨城県 27（16－9、11－16）25 京都県
福井県 31（13－18、18－11）29 香川県

■3位決定戦
香川県 25（13－12、12－7）19 京都府

■決勝戦
茨城県 35（16－15、19－15）30 福井県

■最終順位
優勝：茨城県
2位：福井県
3位：香川県
4位：京都府

【少年女子】

■1回戦
鹿児島県 25（11－6、14－8）14 岡山県
静岡県 24（11－7、13－16）23 宮城県
東京都 28（13－5、15－10）15 香川県
大阪府 21（12－8、9－10）18 沖縄県
千葉県 20（12－6、8－13）19 岐阜県
富山県 37（21－3、16－5）8 北海道
愛知県 31（14－8、17－6）14 茨城県
山口県 24（11－11、13－9）20 岩手県

■2回戦
石川県 25（12－9、13－9）18 鹿児島県
神奈川県 16（9－8、7－5）13 静岡県
東京都 20（8－10、12－8）18 三重県
埼玉県 23（8－9、10－9）22 大阪府
（3－1延長2－3）
熊本県 25（13－8、12－6）14 千葉県
京都府 27（15－9、12－10）19 富山県
愛知県 27（14－8、13－10）18 長崎県
兵庫県 23（12－12、11－9）21 山口県

■準々決勝
石川県 22（8－8、14－8）16 神奈川県
東京都 25（13－5、12－9）14 埼玉県
熊本県 21（12－7、9－8）15 京都府
愛知県 32（18－12、14－11）23 兵庫県

■準決勝
東京都 21（13－9、8－10）19 石川県
愛知県 22（13－11、9－9）20 熊本県

■3位決定戦
石川県 21（15－9、6－11）20 熊本県

■決勝戦
愛知県 27（11－12、16－14）26 東京都

■最終順位
優勝：愛知県
2位：東京都
3位：石川県
4位：熊本県

協会だより

平成15年度第1回国際委員会議事録

日　時：平成15年7月17日　16：00～16：30
場　所：横浜文化体育館２号室
出席者：市原委員長　大西、平岡、竹野、緒方、後藤、荘林、田川、栗山各委員　事務局２名

１．市原委員長より冒頭挨拶。前任者退任後暫定的に国際委員長を務めてきたが、昨年のイラン・男子世界予選時の韓国問題、その後のサンクトペテルブルク・IHF総会、女子ジュニアアジア選手権のカザフスタンの対応等を経験してロビーイングするにも外国語の重要性を痛感したとの発言。続いて委員長に平岡委員を推薦、一同承認。

２．現在進行中の下記事項について各担当より状況説明。
・IHF関係
　IHF理事会　9／26－9／27　神戸
　ムスタファ会長による５カ国会議　未定　神戸
　IHF臨時総会　11／27－11／29　バーゼル
・AHF関係
　アテネオリンピックアジア予選　9／23－9／28　神戸
・EAHF関係　アテネ予選時に会議　未定
・強化関係
　ジャパンカップ03アテネ予選壮行試合　7／17－7／20　横浜・名古屋・福井
　女子ジュニア世界選手権・現地事前合宿　7／27－8／19　マケドニア
　男子ナショナルジュニア遠征　7／30－8／20　ハマメット
　女子ナショナルノルウェー／デンマーク遠征　2／25－9／14
　日韓スポーツ交流（女子U－16）
　　受入　8／11－8／16　石川県
　　訪韓　8／25－8／30　ソウル
　男子U－16訪韓　8／26－8／30　チャンウン
　（８月末からのソウルカップに招待されているが、国体ブロック予選と同時期に当たるため不参加の連絡済）

３．現在の委員が一同に会するのはほぼ２年ぶり２回目であり、開会前に意見交換の時間が持たれた。中で荘林委員より西アジア諸国対策について、単独行動には無理がある。たとえば米国など先進国と共同歩調をとれないだろうか、そして外堀を埋めていくようにしていかないとなかなか問題は解決しないだろうとのアドバイスがあった。

４．アテネ予選時には各位にできる限りの協力をお願いして閉会。

JOCオリンピックフェスティバル ハンドボール部門・大盛況！

10月13日、オリンピックフェスティバルが、駒沢オリンピック公園にて開催された。数ある競技の中、ハンドボールも体験コーナーとして設けられ、他の人気競技に勝るとも劣らない参加者を集め、大盛況のうちに幕を閉じた。

実施時間が僅か２時間のうちに、410人を上回る参加者を集めたのにはJOCの方々も驚きで、大変好評であった。

ハンドボール協会からは、JOC常務理事でもある、市原副会長、そして、緒方強化委員長、栗山スポーツマネジメントディレクター、女子代表チーム・山田選手が参加し、参加者にシュート等を体験して頂いた。今後の普及の面などからも、明るい材料が得られた。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【岩手】田口まり子【茨城】野村正志【埼玉】境井秀三【千葉】岡本　聡【東京】小川　勇、小川洋子、渡辺慶寿、徳田周子、宮本奈芳美【神奈川】亀田　将【静岡】長屋ひとみ、鈴木梨乃【愛知】西口誠一郎、横地宇吉、須原真理子【三重】田村金子、加藤克彦、池本　聡【大阪】山田　稔、山中善之祐、中塚冨佐子、野田佳央里、中川大嗣【兵庫】幸田末之、大西三千男【奈良】田中由紀、松本真実、谷村育理、渡辺明子【鳥取】足立逸郎【岡山】後山富士水【熊本】大島隆志

女子日本代表 世界選手権大会出場決定!!

第16回女子世界選手権2003年クロアチア（2003年12月2日～14日）への出場が、11月12日に急遽決定した。

訃報

財団法人日本ハンドボール協会審判部審査指導委員長、福田英明氏が去る11月4日早朝、逝去されました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

【12月・1月の行事予定】

【大会】
12月17日(水)～21日(日)　全日本総合選手権大会（広島市）
12月25日(木)～28日(日)　JOCカップ（堺市）

【会議】
12月21日(日)　12月常務理事会
1月10日(土)　1月常務理事会

※次号は1・2月合併号で2月1日発行です。

HAND BALL CONTENTS Dec

（登録チームの購読料は登録料に含む）

2003コートの主役

PKCH3-AD　　¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革

PKCH2-AD　　¥4,500

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革

http://www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四四六号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十五年十一月二十六日印刷 平成十五年十二月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一 電話 代表 三四八一ー二三六一 振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円